

サケ・マス増殖管理推進事業調査

1) サケ(抄録)

菊谷尚久

沿岸漁獲調査

1. 2002年漁期の沿岸回帰サケ親魚の旬別の沿岸漁獲量を集計した。
2. 2002年漁期の各海域での漁獲尾数は、太平洋1,098,427尾(前年比134.5%)、津軽海峡184,971尾(前年比91.2%)、陸奥湾内2,221尾(前年比90.6%)、日本海99,250尾(前年比146.2%)であった。青森県全体の来遊尾数(沿岸漁獲尾数+河川遡上尾数)は1,509,087尾であり、1984年以降の最低水準であった前年を上回ったものの依然として低水準のままである。

沿岸環境調査(太平洋におけるサケ回帰親魚の環境調査)

1. 2002年9月から12月の期間中、試験船による海洋観測を実施した。
2. 津軽暖流水の勢力は全般に強勢であり、特に10月は広く深く南下していたものと考えられた。
3. 調査海域においては親潮系水の沿岸への張り出しは観測されなかった。表面水温の分布等では親潮第1分枝の南下は強めであると考えられたことから、沿岸の津軽暖流の勢力が強いために冷水は暖水の外側を回り込む形で、岩手県南部から宮城県よりに接岸していたものと考えられた。

移動分布調査

1. 2002年4月から5月にかけて、青森県日本海、津軽海峡沿岸において、サケ幼稚魚の分布、成長及び移動に関する調査を行った。
2. 小泊沖1,636尾、今別沖13尾の合計1,649尾のサケ幼稚魚を採集した。
3. 各海域で採集されたサケ幼稚魚のF.Lは、小泊沖41～104mm(平均73.1mm)、今別沖60～86mm(平均74.0mm)の範囲にあった。
4. 標識放流は2002年3月11日に3月上旬放流群150,000尾(平均F.L:55.9mm)、4月5日に4月上旬放流群150,000尾(平均F.L:48.5mm)を赤石川サケ・マスふ化場より行った。標識魚の再捕状況は、小泊沖において10尾(3月上旬群5尾、4月上旬群5尾)が再捕され、今別沖では再捕されなかった。

環境調査(日本海における放流稚魚の環境調査)

1. 2002年3月から6月にかけて、沿岸3ヶ所(大戸瀬、今別、八戸)の地先に記録式MDS水温計を設置し、表層水温を連続して観測した。また、鰻ヶ沢地先及び八戸地先において、水温、塩分、クロロフィル等の各層観測を行った。
2. 大戸瀬地先における日平均表層水温を昨年と比較すると、3月には昨年並かやや高めで推移していたが、3月末以降急激に昇温し、5月上旬までは昨年をおおよそ1～1.5℃ほど上回って推移していた。5月中旬以降は昨年並の水温で推移していた。日平均水温が13℃を超えたのは4月24日であり、昨年より13日早かった。
3. 鰻ヶ沢地先での各層観測では、河川水由来の低塩分水を観測した。また、3月下旬～4月上旬にかけてクロロフィル量の増大を捉えた。八戸地先では、低塩分水・クロロフィル量の増大ともに観測されなかった。